

今日15日は、七十二
候では「虹始見(にじ
はじめてあらわる)」
の頃で雨上がりにきれ
いな虹が見られ、春に
初めて見る虹「初虹」

フリー風

(現場)からの風

宮田守男

と季節感表す名称が付けられている。だが残雪多い山肌からは、陽の光が柔らかいとは感じはない。だが安曇野の郷には桜をはじめ花々が春の訪れを強く感じさせてくれる。

日経新聞プラス1が総力編集した、春のチューリップの名所では安曇野市の国営アルプスあづみの公園。第9位に評価されたのは安曇野市、1位の富山県の砺波チューリップ公園、第2位の長崎県のハウス

海道がみゆうべつの色は」と聞かれ、多くの信州人が答えるのは、穏やかな陽光を優しく受け止めて咲く黄

色の菜の花ではないだけあって、野県内で唯一選定された国営アルプスあづみの公園の日頃の取り組みに感謝だ。国際品種名登録機関のチューリップ登録品種は700種以上、毎年10種近くの新種が生まれ

と想わせてくれる。長野県内での悲惨な状況を伝えるのが視聴率確保の必然性のなかで、現代社会の人文性の姿貌に驚かされる。以前の日本社会では、悲惨な状況を映像で連続してしまえば、視聴者の心に大きな影響が生じてしまうのではないかと心配だ。

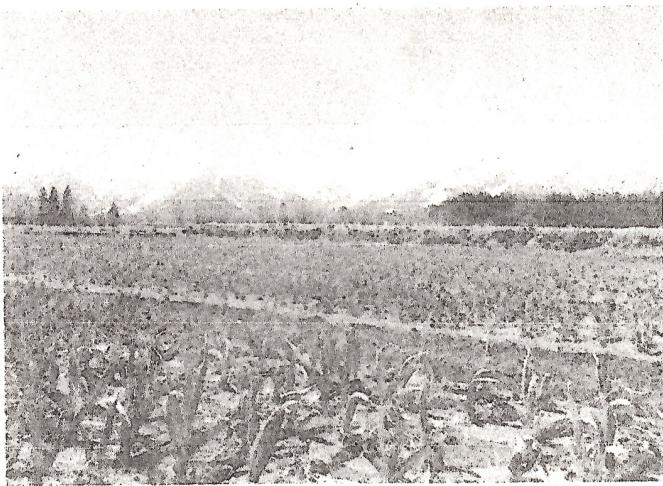
色の菜の花ではないだけあって、野県内で唯一選定された国営アルプスあづみの公園の日頃の取り組みに感謝だ。国際品種名登録機関のチューリップ登録品種は700種以上、毎年10種近くの新種が生まれ

雄さんの「朝浅き」の一篇に幼子が摘んできただ野草の名を聞かれ、名前が分からず白花、黄花と色で答えた様子を編む一章がある。この摘んだ草花が何だつ

かたたまつた。

だが悲惨な映像が放映されるテレビ等から伝わる内容は、殺人をテーマにした番組が多く、映像を観ながら犯人探しに夢中になる事が当たり前の文化になら、悲惨な映像が社会問題化さらされていない。またゲームでは、自らの動作で人などを殺戮する事に何とも感

じない人間造りがされ、いざ日本人が参戦する戦場でも人間の殺戮を何とも思わない日



雪の中で育ったニンニクにも陽の光が降り注ぐ

本人になるのかと恐ろしくなってしまう。
(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)